

令和 7 年度放課後子ども教室事業における目標の設定について

久喜市放課後子供教室は、国と県が実施する「地域と学校の連携・協働体制構築事業」を利用して運営しています。上記事業の実施に伴い、久喜市では以下のとおり課題及び目標を設定しています。

【背景・現状・課題】

- ・学校と地域の課題（学校支援ボランティアの確保・育成）：サポーターの高齢化や固定化に伴い、新たな人材の発掘が必要である。また、従来の保護者サポーターの減少も影響している。
- ・学校と家庭の課題（放課後等における多様な体験活動）：学校の授業だけでは学習できない講座を子どもたちに体験させて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりが必要である。

【課題解決のために令和 7 年度に実施する具体的な取組】

〈サポーターの確保〉保護者や地域向けのサポーター募集チラシを作成・配布するとともに、SNS 等でも情報を発信し、サポーターの募集を広く呼びかける。

〈体験活動の充実〉多くの児童が参加するよう、子どものニーズや日常では体験することのできない講座（学校でできない体験活動等）を検討・企画する。

【目標】

- ・地域学校協働活動推進員が学校と地域をつなぐ「核」となるコーディネーターを目指す。
- ・すべての教室で、学習活動、スポーツ活動、表現交流活動に関する講座を実施し、放課後子供教室を通して児童に充実した体験活動を経験させる。

【実績・評価・分析】

指標 1：実施委員及びサポーターの数 令和 7 年度目標値：2,340 人 令和 7 年度の実績値 2,196 人

分析：サポーターの高齢化のみならず、児童数の減少に伴い、従来の保護者サポーターの減少が影響し、目標値を下回る結果となった。保護者の理解と協力を得るとともに、中学生ボランティア（サポーター）なども参加しやすい環境を整え、地域学校協働活動として推進していきたい。さらに、地域の高等学校とも連携し、ボランティアサポーターの募集に努めていく。

指標 2：参加児童数の割合 令和 7 年度目標値：49% 令和 7 年度の実績値 43%

分析：新講座（市内企業と連携した職業体験等）は好評であった。学校ではできない「体験」を取り入れることで参加数は増やすことができる。豊かな「体験」を提供できるよう、講座を提供していきたい。一方で、今後の児童数の増加については、統計からも難しい。今後は、児童数の増加の指標から、講座内容の充実に関して、児童の意見を反映できるような指標に変更していく必要がある。